科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	学年
210010	XXX1210010	2	前期	国際学部国際文化学科	基礎	選択	1年
				国際学部国際文化学科英語集中コース	基礎	選択	1年
授業科目	担当教員			情報文化学部情報文化学科	共通	選択	2年
平和学	佐々木　寛			情報文化学部情報システム学科経営コース(26年度以降)	基礎	選択	1年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(26年度以降)	基礎	選択	1年
				情報文化学部情報システム学科経営コース(25年度)	共通	選択	2年
				情報文化学部情報システム学科情報コース(25年度)	共通	選択	2年
				情報文化学部情報システム学科(24年度以前)	共通	選択	2年

授業目的

平和学は「ジェノサイド」や「世界戦争」といった、20世紀の暴力をめぐるさまざまな人間の経験から生成し、展開を遂げてきた学問運動である。それゆえ平和学は、一貫して、既存の社会構造や世界秩序を批判的に見つめ、その代案（オルタナティブ）を模索しつづけてきた。そしてまた、既存の政治学・社会学・経済学などの社会科学のみならず、時には自然科学をも横断した包括的な認識枠組みから問題の核心に肉迫し、むしろ既存の知識体系自体に重大なインパクトを与えてきた。講義の前半では、戦争と平和、あるいは暴力の問題そのものに関する知の蓄積を広く「平和学」の中に位置づけ、それら一連の思想や理念、理論などを、それらが生成してくる歴史的な背景とリンクさせながらふりかえってみたい。さらに後半では、現在の「グローバル化」にともなう新しい問題群が平和学につきつける挑戦の意味を明らかにしたい。平和学がこれら問題群といかに格闘してゆくのか、またなぜ平和学という広い枠組みでなければこれらの問題に対応できないのか、つまり平和学の＜批判的構想力＞を今後どのように鍛え上げてゆくべきなのかについて、共に考えてみたい。

各回毎の授業内容

第１回
【授】「平和」とは何か —— 平和学前史　①
【前・後】高畠通敏『平和研究講義』（岩波書店）を読んでおく

第２回
【授】「平和」とは何か —— 平和学前史　②
【前・後】高畠通敏『平和研究講義』（岩波書店）を読んでおく

第３回
【授】「平和」とは何か —— 平和学前史　③
【前・後】高畠通敏『平和研究講義』（岩波書店）を読んでおく

第４回
【授】平和学の生成 —— 20世紀の時代経験Ⅰ（ジェノサイド）　①
【前・後】高柳先男『戦争を知るための平和学入門』（ちくま書房）を読んでおく

第５回
【授】平和学の生成 —— 20世紀の時代経験Ⅰ（ジェノサイド）　②
【前・後】高柳先男『戦争を知るための平和学入門』（ちくま書房）を読んでおく

第６回
【授】平和学の展開 —— 20世紀の時代経験Ⅱ（構造的暴力）　①
【前・後】高柳先男『戦争を知るための平和学入門』（ちくま書房）を読んでおく

第７回
【授】平和学の展開 —— 20世紀の時代経験Ⅱ（構造的暴力）　②
【前・後】高柳先男『戦争を知るための平和学入門』（ちくま書房）を読んでおく

第８回
【授】世界秩序の構造変動と平和学の新地平　①
【前・後】岡本三夫・横山正樹編『平和学のアジェンダ』（法律文化社）を読んでおく

第９回
【授】世界秩序の構造変動と平和学の新地平　②
【前・後】岡本三夫・横山正樹編『平和学のアジェンダ』（法律文化社）を読んでおく

第１０回
【授】新世紀の平和学 —— 21世紀「平和秩序」形成のために　①
【前・後】君島東彦編『平和学を学ぶ人のために』（世界思想社）を読んでおく

第１１回
【授】新世紀の平和学 —— 21世紀「平和秩序」形成のために　②
【前・後】君島東彦編『平和学を学ぶ人のために』（世界思想社）を読んでおく

第１２回
【授】日本の平和主義の課題と平和学
【前・後】授業で紹介される文献や資料を読んでおく

第１３回
【授】新しい「文明」を求めて　①
【前・後】授業で紹介される文献や資料を読んでおく

第１４回
【授】新しい「文明」を求めて　②
【前・後】授業で紹介される文献や資料を読んでおく

第１５回
【授】新しい「文明」を求めて　③
【前・後】授業で紹介される文献や資料を読んでおく

第１６回

成績評価方法

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	強調・指導力	発表・表現	その他	評価割合(%)
定期試験							90
小テスト・授業内レポート							10
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加							
成果発表（口頭・実技）							
演習							
その他							

しばしば講義の最後に、コメントカード（質問やコメント、感想を書いてもらう）を作成してもらい、それらは講義の改善に役立てるだけでなく、受講者の参加姿勢を見る材料とする。基本的に最終筆記試験の成績によりすべての評価を決定し、出席も重視しないが、このコメントカードの内容は成績に加味する。また、試験は、個別的な知識よりはそれをもとにした思考力（学期中にどれだけ考えたか）を重視した問題を出題する。

教科書参考書

共通の教科書は、日本平和学会編『平和を考えるための100冊＋α』（法律文化社）。

参考書は、授業中、それぞれのサブテーマに即して随時指定する。必読参考文献の一例として、高柳先男『戦争を知るための平和学入門』（ちくま書房）、高畠通敏『平和研究講義』（岩波書店）、日本平和学会編『平和研究第26号——新世紀の平和研究』（早稲田大学出版部）、君島東彦編『平和学を学ぶ人のために』（世界思想社）、岡本三夫・横山正樹編『平和学のアジェンダ』（法律文化社）、J. ガルトゥング『構造的暴力と平和』（中央大学出版部）、U. ベック『危険社会』（法政大学出版局）、P. ハースト『戦争と権力』（岩波書店）などを挙げておく。

受講に当たっての留意事項

平和学は、いわゆる「文系」「理系」の区分をこえた講義科目である。個々の専門科目を学習する前の基礎的な知的訓練を行う。

学習到達目標

平和学のアジェンダは常に展開するのであり、参加者は最終的には自分なりの「平和学」を構築してほしい。

JABEE

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習